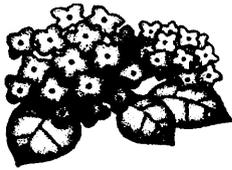


沼津市青少年教育センター

たより

平成25年6月号 No. 502

〒410-0881 沼津市八幡町 97 番地 ☎(055)951-3440 FAX(055)952-3300



雑 感

青少年教育センター所長 相磯幸代

通勤や帰宅途中の車の中から季節の移り変わりを感じることがあります。春には満開の桜や新緑の木々、低空飛行のツバメの子らは梅雨が近いことを教えてくれます。初夏に吹く潮の香りを含んだ海風、朝から照りつける真夏の太陽が落ち着いた後に山々は紅葉し始めます。海にゆっくり沈む大きな夕日にそろそろ寒くなる予感を覚え、澄んだ空気の中に凜とそびえる冠雪の富士山に背筋を伸ばします。

昨夜は叱りすぎてしまったなと思いだす子どもの顔、時間のない朝に慌てて割ってしまった茶碗、仕事でのケアレスミスや懸案事項、仕事が終わる頃には肩は張るし、疲れてだるい身体・・・毎日毎日、様々な後悔や反省、疲れを乗せて運転している私は、車から見える四季の折々の自然に癒されます。景色の雄大さや美しさに気持ちがふわっと軽くなり、通勤や帰宅の時間は大自然に浸かる貴重なリフレッシュタイムに変わります。

反面、自然がもたらす過酷さや残酷さを忘れることはできません。平成7年1月17日に兵庫県南部を襲った阪神・淡路大地震。何時間経っても確認された死者数と行方不明者数がどんどん増え続けるニュースに恐れ慄き、鳥肌が立ち続けたことを鮮明に記憶しています。死者6,400人以上という大規模な地震災害でした。平成23年3月11日に起こった東日本大震災では、その後に大きな津波が押し寄せ19,000人ももの尊い命が失われました。建物の全壊・半壊は399,000戸、甚大な被害を残した戦後最悪の巨大な自然災害と報道されました。私の息子もその地震に巻き込まれ、連絡が途絶えてしまいました。食事ものどを通らず、寝込んでしまった私のもとに3日後に「生きている。」という知らせが届き、東日本大震災の怖さを沼津にしながら実感し、自然への畏敬の念を改めて抱きました。息子の無事を感謝するとともに自然の厳しさに直面し、亡くなられた方々の冥福と残された人々の幸せを祈らずにはられません。

それぞれの地震から少し時間が経ちました。被災しながらも復興にむけて努力を続ける姿には、本当に心が打たれます。自然の恩恵と脅威の中、生かされていることを実感し、また、その中で生きていく人間の力強さを信じていこうと思います。



子どもに学ぶこと

沼津市立静浦小学校長 浅倉 博文

本校は海岸沿いにあることから、津波被害を想定して年に10回、避難訓練を実施しています。

昨年のことです。休み時間に地震が起きたことを想定し、予告なしに緊急放送を入れて訓練を開始しました。私は、子どもたちが集まってくる避難路の入り口にいました。

避難開始とともに、校舎のあちこちから子どもたちが真剣な顔で走ってきます。グラウンドにいた子たちも、体育館を回って避難路に向かって走ってきました。その中に、6年生の女子が、1年生の手を引きながら逃げて来る姿がありました。他の子たちはどんどん先に行きますが、その二人はグラウンド組の最後を遅れて走ります。

全校児童が避難路の上の高台に避難し、点呼。予告ありの授業中より避難が速かったのは予想外でした。

後日、朝礼で「津波てんでんこ」の話をしました。過去に何度も津波に襲われ、多くの命が失われた東北地方で語り継がれている、せつない経験の中から生まれた苦しい言葉です。津波から逃げる時は、まず自分の命を守ることが大切。てんでに逃げろ。場合によっては親をも見捨てろ。

話を進めていくうちに、ふと、先日の1年生の手を引く6年生の姿が頭をよぎりました。あの時は心やさしい6年生だと感心したのですが、本当にいいことだったのでしょうか。実際、本校では学級ごとに避難する場合、校舎から出て避難路に入ったら、(避難路は急坂ですが幅はあるため)前の組を抜かせる時は抜きなさい、遅い学年に合わせなくてもよいと指導しています。

本当は、あの6年生は一人で逃げるべきだったのではないか。

その後、東日本大震災の記事を読んだり、防災に関する講演を聴いたりするたびに、あの二人のことを考えました。あの6年生の行動の価値を自分に問いました。

ある時、県の事業で防災アドバイザーが来校しました。社会環境学の准教授の先生に、このことを聞いてみました。

駿河湾のプレートで地震が起きた時、本校周辺の津波到達予想時間は7～8分です。太平洋のプレートが震源だと、もっと遅いとのこと。避難時間が今まで4分前後だと説明すると、先生は、

「大丈夫です。この予想時間より津波の到達が早まることはありません。この避難時間内に全ての児童が避難することが大切です。」

私はとても嬉しくなって、さっそく次の避難訓練の時に子どもたちに話しました。

「揺れがおさまったら、とにかく素早く逃げましょう。自分の命は自分で守るのです。でも、もし動けないお友達がいたら、声をかけてあげましょう。ぐずぐずしている人がいたら手を引いてあげましょう。みんなで助かりましょう。」

子どもたちの顔を見回すと、あの時の6年生と目が合いました。ああ、私はこの子に教えられたのだなと思いました。

職業柄、つつい子どもたちを指導しようとしがちです。しかし、感性や精神的なことの中には、大人より子どもの方が直感的に優れているものもあります。子どもに学ぶことがある。楽しそうに学校生活を送る子どもたちを眺めながら、時々自戒しています。

面接相談



- ◎非行・不登校・発達・子育て・進路・対人関係など青少年に関する面接相談。
- ◎相談および申し込み受け付け時間：
午前9時～午後5時 月～金曜日（祝祭日を除く）
- ◎相談申し込み：Tel 951-3440

平成25年4月・5月の状況

4・5月には新たに申込みがあった9件（4月2件、5月7件）を含め、40件（延べ相談回数278回）の相談に応じました。

1. 相談内容別新規相談件数

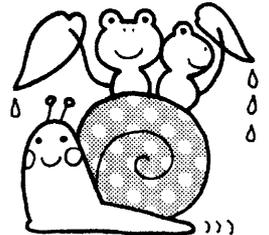
	非行	不登校	発達・子育て	進路・適性	対人関係	その他	合計
4月	0	0	2	0	0	0	2
5月	0	7	0	0	0	0	7

2. 相談対象者別

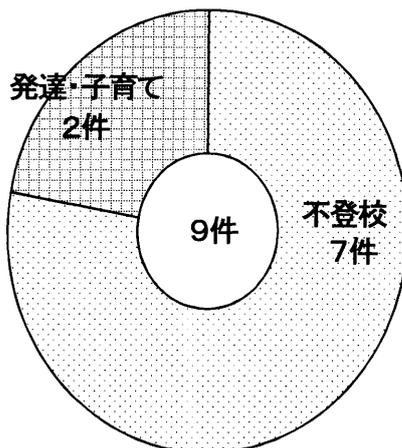
	幼児	小学生	中学生	高校生	少年	一般成人	合計
4月	0	2	0	0	0	0	2
5月	0	1	5	1	0	0	7

3. 今年度の新規相談受付状況

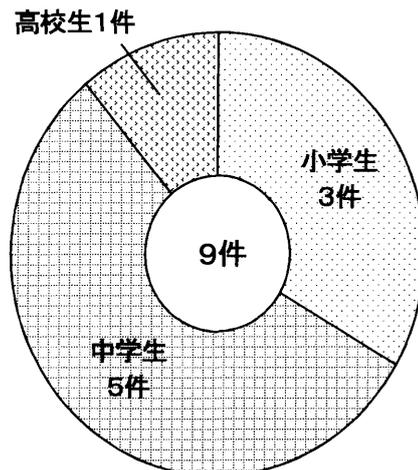
受付件数 9件 （前年同期 11件）



相談内容別



相談対象者別



4. 4・5月に応じた相談件数（新規相談＋継続相談）

対 象	性別	非 行	不登校	子育て・発達	進路・適性	対人関係	その他	計
幼 児	男							0
	女							0
小学生	男		2					2
	女		3	4				7
中学生	男		9	3				12
	女		8	1		1		10
高校生	男		1			2		3
	女		1					1
少 年	男				1	2		3
	女				1			1
一般成人	男					1		1
	女							0
計	男	0	12	3	1	5	0	21
	女	0	12	5	1	1	0	19
男女合計		0	24	8	2	6	0	40

5. 4・5月の相談回数（40件の相談に要した延べ回数）

月	性別	面 接	訪 問	その他	合 計
4・5月	男	79	12	58	149
	女	70	10	49	129
	計	149	22	107	278

相談指導学級 学級担当

本年度の開級は4月11日(木)でした。昨年度からの継続通級者5名で学級生活をスタートしました。

午前中は学習中心の活動をしています。取り組む教科は各々の考えで選択していますが、基礎基本からやり直そうと日々努力しています。学校のテストが近づくと気になるのかその範囲を進めている生徒もいます。自学の辛さを感じながらも、真剣に取り組んでいる姿が印象的でした。

午後は創作活動、スポーツ等行っています。創作活動は自分で計画を立てて取り組んでいます。スポーツは、毎週火曜日の午後体育館を借りて行い、興味関心のあるスポーツに取り組み、清々しい汗をかいています。9月以降にはグラウンドも借りて様々なスポーツに挑戦する予定です。

また、月2～3回程度木曜日に体験活動はばたきを実施しています。自然観察やハイキング、畑作りなど屋外で身体を動かす活動を中心に、キャリア教育の一環としての高校見学等も行っています。さわやかな空気のもとで思い切り身体を動かし、心も開放してくれることを望んでいます。今後も見学や学習的な要素も取り入れながら、体験活動はばたきを継続していきます。

電話相談

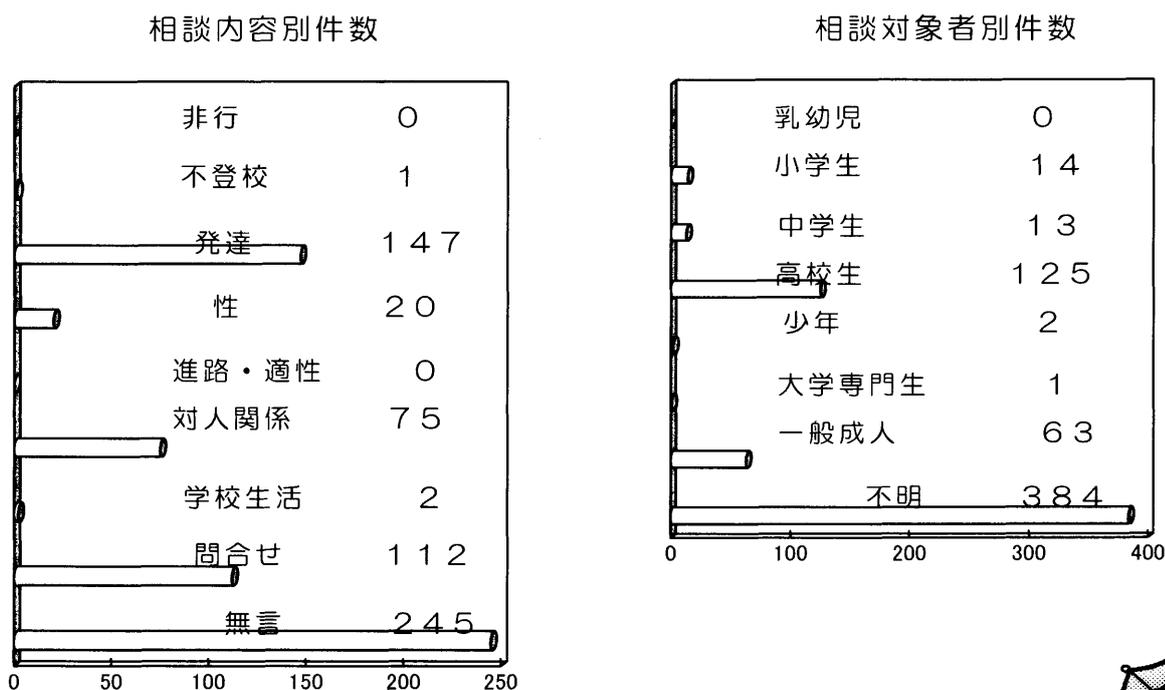


◎非行・不登校・発達・進路・対人関係など青少年に関する相談。
 ◎相談時間：午前10時～午後7時 月～金曜日（祝祭日を除く）
 ◎愛称：やまびこ電話 951-7330

平成25年4月・5月の状況

4月には247件、5月には355件の相談が寄せられました。
 （前年4月：153件、前年5月：228件）

1. 4・5月の相談状況



2. 今年度の電話相談受信件数状況(平成25年度)

総件数 602件（前年同期 381件）

(1) 相談内容別

内容	非行	不登校	発達	性	進路・適性	対人関係	学校生活	問合せ他	無言
件数	0	1	147	20	0	75	2	112	245

(2) 相談対象者別

内容	乳幼児	小学生	中学生	高校生	少年	大学専門生	一般成人	不明
件数	0	14	13	125	2	1	63	384



少年補導委員になって

第二地区少年補導委員 佐藤 真

私が少年補導委員になったきっかけは、小学校のPTAの役員になってからです。

私の地区（第二地区）は、PTAの補導担当役員になると、自動的に、地区の補導委員になるからです。それが22年前のことです。その間、子どもを非行から守る補導活動や、PTAと地区補導とのパイプ役として、4年間務めました。

その後、地区から補導委員をやってくれないかと頼まれ、現在に至っております。

（第二地区）は、観光地としての港湾、干本浜があるため、昼間はけっこうにぎやかで、休日などは人通りも多いです。しかし、夜になると、さびしいくらい人通りも少なく、静かな町に変わります。そんな静かな町なのですが、子ども達を非行から守る為、毎回、補導で廻っています。

だけど、私が補導委員になりたてのころ、いつも疑問に思っていました。

「こんな人通りも少なく、静かな町を補導で廻っても無駄ではないのですか。」と聞いてみたら、「そんな事はないよ、私達大人が、こうして補導で廻っていれば、どこかで、子ども達が見ているはず、それが抑止力になるのだよ。」と、先輩の補導委員さんが言ってくれました。今でも、補導で廻っていると、その言葉が頭に浮かんできます。

だから、新しく補導委員さんになった人に、私は「やっている事は、けっして無駄ではないよ。」と、言って頑張っている廻っています。

これからも、この静かな町で、少しでも子ども達を非行から守るための活動を、行っていこうと思っております。

1. 少年補導委員の延べ参加人数（4月・5月）

区別	市職員	教員	地区補導委員	女性補導委員	母親補導委員	警察関係	総数
4月	19	10	188	14	0	1	232
5月	2	3	259	0	3	2	269

2. 補導回数・補導状況（4月・5月）

	補 導 回 数				声かけ 注意・指導	事 後 指 導	
	午前	午後	夜間	計		学校・親等へ連絡	他機関へ連絡
4月	4	11	19	34	77	0	0
5月	0	10	28	38	109	0	0

3. 平成25年度 4月からの補導活動累計

補 導 回 数	延べ 参加補導委員数	声かけ 注意・指導	事 後 指 導	
			学校・親等へ連絡	他機関へ連絡
72	501	186	0	0

4月・5月の街頭補導少年の学職別状況（中央補導・地区別補導）

平成25年度の補導が始まりました。今年度もよろしくお願ひします。4月・5月は、やはり前年度同様にゲームセンターへの入場が群を抜いて多い状況です。特に、中学生が目立つようです。市内一斉に学校が午前中で終了した日の午後のゲームセンターは、小・中学生であふれていました。

学 職 別 区 分		性別	小学生	中学生	高校生	その他学生	有職少年	無職少年	計	四月からの 累計
行 為 種 別	飲 酒	男							0	
		女							0	
	喫 煙	男							0	
		女							0	
	夜 間 は い か い	男			1				1	1
		女							0	
	不 良 交 友	男							0	
		女							0	
	怠 学 ・ 怠 業	男							0	
		女							0	
	ゲ ー ム セ ン タ ー 入 場	男	12	38	40				90	90
		女	6	22	1				29	29
	パ チ ン コ 店 入 場	男							0	
		女							0	
カ ラ オ ケ 店 入 場	男							0		
	女			4				4	4	
自 転 車 の 暴 走 行 為	男							0		
	女							0		
自 転 車 の 二 人 乗 り	男							0		
	女							0		
自 転 車 の 無 灯 火	男		1	12				13	13	
	女		1	4				5	5	
危 険 な 遊 び	男							0		
	女							0		
そ の 他	男			26				26	26	
	女			18				18	18	
計		男	12	39	79	0	0	0	130	130
		女	6	23	27	0	0	0	56	56
男 女 合 計			18	62	106	0	0	0	186	186

事 後 指 導	家庭・学校・職場へ連絡	男							0	
		女							0	
	他 機 関 へ 連 絡	男							0	
		女							0	
合 計			0	0	0	0	0	0	0	0

情報コーナー

民間支援団体と公的支援機関、高等学校による

合同相談会

主催 静岡県

ニート・ひきこもり・不登校など悩みを抱えている子ども・若者、外国人の子ども・若者を支援するフリースクール、サポート校、就労支援団体、通信制・定時制高等学校、長期欠席生徒選抜実施予定の県立高校がブースを設置し、個別相談に応じます。まずは、相談してみましょう。

- 1 期日 平成25年8月24日(土)
- 2 時間 受付 13:00~15:00
ブースによる相談会 13:30~15:30
- 3 会場 富士駅南まちづくりセンター 富士市横割1-4-15
アクセス: JR富士駅南口から徒歩10分(駐車場有)

※ 参加費無料 事前申込み不要です。

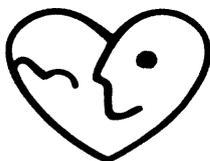
問合せ先: 静岡県教育委員会社会教育課 電話 054-221-3160

センターの活動予定 (7月・8月の主な活動予定)

日 程	活動(行事) 予定	日 程	活動(行事) 予定
7月1日(月)	青少年の非行・被害防止強調月間 [~8月31日(土)]	27日(土)	沼津夏まつり特別補導 [~28日(日)]
3日(水)	薬物乱用防止キャラバンカー学校訪問 [~5日(金)]	7月4日(木)	【体験活動はばたき】 三島ハイキング
8日(月)	青少年の非行・被害防止街頭キャンペーン	10日(水)	調理
12日(金)	県内一斉補導	18日(木)	畑の除草・軽スポーツ
19日(金)	第2回補導委員会代表者会		※天候等諸事情により、変更することがあります。

明るい子どもが育つまち

青少年健全育成シンボルマーク



青少年健全育成都市宣言 (昭和55年)

あいさつで ひろがる愛の輪 地域の輪

青少年を、優しく温かい心で包み込むという思いから、右側は笑顔、左側は手のひら、全体はハート(心)を表しています。